

認ノ候ノ共目下軍艦トシテ就彼中ニ是御診議ノ上本
 校配属ノコトニ御尽力ヲ得度若シ勝力不可能ナラハ午
 代田代船ニ就テハ造而再ニ協議致度
 (別紙于代田認定検査写一葉透)

(終)

千代田認定検査寫

天正十四年三月五日認定

船体部

船体一般ニ老朽ナリ就中船底構造物ハ局部的衰朽箇所アリ
相當修理ヲ施シ荒天外洋ノ航行ヲ遠慮スルトキハ向後約二
年ノ使用ニ堪ルモト認ム

機関部

罐一般ニ衰朽甚タシク十二罐中六罐ハ使用見込ナキモ他ノ
六罐ハ今後約一ト半低燃焼度使用差支ナキモト認
ム但シ修理ノ價値ナシ

機械ニテ年間引換ノ要ナキモト認ム

諸管、弁嘴類ハ衰朽甚タシク修理ノ價値ナシ

終

軍務局

第一課長

横造半葉十三行罫紙



一、公称第百四十四号、公称第百四十四号、旧三年敷設艇(中程 三〇七級)シテ新形編入代船補充系に依り決定シ合ニナリ

各領守隊防衛隊 一 五〇七級 二 一〇〇七級 二 計 一 二 隻

各要港部防衛隊 一 〇〇七級 二 五〇七級 二 計 一 八 隻

合計 二〇 隻

新造費、大司令、^{新艇}防衛費、修費、^{新艇}一、^{新艇}部、^{新艇}常費、^{新艇}補充、^{新艇}あり

二、特務艇、新造、^{新艇}既成、^{新艇}計画、^{新艇}並、^{新艇}十、^{新艇}年、^{新艇}次、^{新艇}新、^{新艇}補充、^{新艇}系、^{新艇}成、^{新艇}之、^{新艇}依、^{新艇}り、^{新艇}解、^{新艇}決、^{新艇}ス、^{新艇}ハ、^{新艇}中、^{新艇}内、^{新艇}決、^{新艇}ナリ

要之、本件ハ特ニ考慮ノ必要ナク便宜上、方針ヲ内示スル程ナモナリ

海軍

軍務局

第一課

海軍

皇防機密

三三三ノ二

大正十五年十二月七日

館 吳防備隊司令

吉田軍務局第一課長殿

當隊附信船艇引換上申、件

當隊附信船艇ノ老朽及能力貧弱、窮状ヲ匡救
 スルノ急務ヲ認メ、這回別紙寫ノ通、該管長官經
 由上申致置條陸費多端、杉柄等親ニ相當
 困難アルヘキヲ知リ、尚斯種ノ處置ニ出テタル苦
 衷ヲ諒トセリ、何分、少盡力相煩度
 右依 轉ル

(別紙寫一通添)

(印)

防備隊
第九日



0532

大正十五年十二月七日

防備隊司令館 明次郎

海軍大臣 財部 彪 殿

當隊附屬船引換相成度件

輓迄ニ於ケル機雷及掃海具等ノ進歩ニ順應シ當
 隊平戰時任務ノ遂行ニ遺憾無カラシムルニ當隊各
 種施設中改善擴充スヘキモノニテ足ラスト雖現有老
 朽附屬船二隻ヲ凡ソ左記能力ヲ具備スル新式艇ト
 引換フルヲ以テ急務中、急務ニ屬スト認メ候條御詮議
 ノ上速カニ實現相成様致度別紙理由書相添ヘ
 右 上 申 上

託

事

重

新要 要項	船種	公称 噸位	用途	噸位	水速 最大	建造 及大正十五年 査定成績	現寄運能力及航事
有	級	一	一	四	六		
敷	二機 要		一掃海	一掃海			
報			三七二九五				
大修理要之月	明治三十五年十月	大修理要之月	大正十六年度	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月
船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装
五箇隻共十五年	力量發揮不可	強在通風用	二改裝セザルハ	能ナリ	船体特ニ船底各部	腐蝕甚ク其	美裝的實礼ニ相
大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月
船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装
五箇隻共十五年	力量發揮不可	強在通風用	二改裝セザルハ	能ナリ	船体特ニ船底各部	腐蝕甚ク其	美裝的實礼ニ相
大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月
船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装
五箇隻共十五年	力量發揮不可	強在通風用	二改裝セザルハ	能ナリ	船体特ニ船底各部	腐蝕甚ク其	美裝的實礼ニ相
大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月	大修理要之月
船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装	船体及機装

洋 貨

新	要	所	船
務	特		船
	二	辨	一四
一掃 六。約	一掃 敷		三。一。
白。			
		<p>大正十五年四月 引換ヲ要スル 大正十九年四月 二機関 核機ハ概テ可 ナシ 電機具ハ概テ 可換セラル 大正十九年 大正十九年 大正十九年</p>	<p>四月ハ大修 行 ハリス</p>
三用途欄記載三項	<p>一、有力元無線通信 機及照明装置ヲ 備フルニト 二、三機関一所以上ヲ 備フルニト</p>	<p>一、有力元無線通信 機及照明装置ヲ 備フルニト</p>	

(別紙)

附屬船艇引換上申理由書

當隊現有附屬船艇(機動艇)ハ黒神、歴山、硯海及公稱六四一、六四二以下小汽艇ヲ加ヘ十五隻ニ上ルト雖歴山、硯海ヲ始メ大部ハ老朽衰微シ僅ニ黒神及交通艇一隻カ大正元年以後、建造ニ係ルノミナル現狀ニシテ修補整理ヲ督勵シ之等ノ節用保存ニ努力シツ、アルモ人テマ殆ト任務遂行上耐ヘ難キ窮境ニ陥ルニ至レリ

一教育訓練上ヨリ見タル理由

當隊平時編隊制ハ機雷班十二個及掃海班六個等ヨリ制ルニ對シ之等裏設及掃海訓練用ニ使用シ得ル船艇ハ僅カニ黒神型一隻及前顯公

一

二

稱號ニ隻ニ過スシテ之等三隻ノ不断活動ニ待ツモ尚所望ニ達セサルニ拘ラス公稱號ニ隻ノ現状ハ左ノ缺陷アリ

(一)老朽ノ為頻繁ナル修理手入ヲ要シ最近一ケ年ヲ通シ右ニ隻共同時ニ出勤ニ得タル期間極メテ短少時ニ過キサリキ

(二)船体老朽腐蝕ノ為突發的ニ船底ニ穿孔ヲ見ルコトアリ外海ハ勿論紀伊水道豊後水道方面ノ行動作業ニスラ不安大ナルノミナラス全然照明具(發電機)ノ裝備無キカ為殆ト夜間ノ行動作業不適ナリ

(三)大掃海具ヲ以テスル掃海訓練用ニ主用シツアルモ速力遲緩ノ為千二百米以上ノ大掃海具

二號丙ヲ用ユル場合ニ於テハ其其實速力五節
ヲ出テス多少風潮アル海面ニ於テハ掃海ヲ甚
シク困難不確ニ實ナラシム

(四) 副用トシテ機雷敷設訓練ニモ使用スルコトアルモ
塔載可能敷各二十個ニシテ僅カニ初步訓練
ニ使用シ得ルノミ而モ黒神トノ編隊敷設訓
練ノ如キ六節内外ノ依速力ヲ以テノミ遂行シ
得ルニ過キス

尚訓練期間ノ一半ハ丙種班同時ニ出勤シ各其
班名ニ因メル主務訓練ニ従事スルノ外其副
務トシテ機雷班ハ掃海訓練ヲ又掃海班ハ敷設
訓練ヲ行ハサルヘカラサル關係上不斷ノ出勤可能
ニシテ裝備優秀ナル艇充當ヲ切要トス

要

要

敵兵主ニ敷設訓練及掃海訓練ニ就キ述ヘタル
 處ナルモ當隊トシテハ尙基準網防潜網等敷設
 訓練ヲ實施セサルヘカラサルニ對シ現ニ之ニ適スヘキ
 船艇無ク防潜網敷設ノ如キ止ムヲ得ス運貨船ヲ
 用ヒ右公稱號ヲ以テ曳航シツ、行フ如キ迂遠ナル
 方法ヲ採リツ、アリ之又主文表記ノ如ク少ナクモ防
 潜網一淫ノ裝備敷設能力アル新型艇ヲ要望ス
 ル所以ナリ

ニ作戰準備ヨリ見タル理由

前記教育訓練ニヨリ見タル理由ハ直々ニ本作
 戰準備ヨリ見タル理由、根本ヲ為スモノナルモ尙
 一各防備隊ノ戰時ニ於ケル第一次準備機雷數
 ヲ簡覽スルニ當隊所掌數量ハ第一位ニ在リ

又基礎員ニアリテモ現在班數ニ於テ要港部防備
 隊ニ準スルノ狀況ニアリ殊ニ戰時一時ニ多額準備
 備ヲ要スル機雷掃海具及各種防禦網等ノ整
 備取扱ハ平時不斷ノ積極的訓練ニ依リテノ遺
 際ナキヲ期待シ得ルモノナルカ故ニ最低限度トモ稱
 スハ本要港ノ充足ハ實ニ喫緊事ニ屬ス

(二)伊豫灘周防灘紀伊水道豊後水道下関海
 峽等ニ於ケル各種防備關係作業ハ必スシモ
 當隊現在員現有船艇ヲ以テ行フ限リニアラス
 ト雖モ平素ヨリ克ク之等現地ニ於ケル各種防
 備作業實施ノ基礎的要素ヲ究明檢討シ
 以テ有事ノ日ニ於テ啖臍ノ悔無カラシメムニハ
 四季晝夜ヲ通シ少クトモ之等地域ノ行動路

査ニ堪能ナル艇艦ノ整備ヲ待ツテノミ期待シ得
 ヘキモノナルニ拘ハラス當隊ニハ之ニ適スヘキ一隻ノ艇
 艇ヲモ具備セス之レ超黒神型トモ稱スヘキ主文
 表記ノモノ、新艦製充當ヲ以テ旧公稱型ニ引
 換方ヲ超望スル所以ナリ
 因ニ記ス斯種新艇ニ十二艘ノ裝備ヲ要求スル
 ハ列強潜水艦砲煩裝備ノ現狀ニ鑑ミルモ當然
 ノ事ニ屬ス

(終)

0542

保管

電報譯

大正十五年二月十二日受

杉山局員宛

吳鎮守府副官



模造半葉十三行對紙

一月二十九日附軍務一極密第十三號豫備特務
艦保管ノ件別記中 要員臨時組 十五年二月十九
日トアルハ港務部ニ引渡ス 期日ニシテ重員ノ撤退
ノハ二月二十日ノ意味ナル也

遠塔務了引後ハ要員撤退ノ

二月十二日
午後一時〇分
發電済

海軍